

2015

第25回守谷市青少年海外派遣事業報告書

平成27年8月4日(火)～8月11日(火)



守谷市

目 次

| | |
|----------------------|-------|
| ● 守谷市長あいさつ | 1 |
| ● 守谷市国際交流協会会長あいさつ | 2 |
| ● 第25回守谷市青少年海外派遣団員名簿 | 3 |
| ● 事前・事後研修日程 | 4～5 |
| ● 海外派遣日程 | 6 |
| ● ホストファミリー名簿 | 7 |
| ● ドイツ・マインブルク市周辺地図 | 8 |
| ● 思い出の日記 | 9～15 |
| ● 守谷からのプレゼント | 16 |
| ● 派遣団員報告書 | 17～32 |
| ● マインブルクの新聞に掲載された記事 | 33～34 |
| ● 編集後記 | 35 |



夢に向かって

守谷市長 会田 真一

第25回守谷市青少年海外派遣も、多くの皆様の御協力により無事に終了いたしました。マインブルク市への青少年の派遣は、この夏で8回目となりました。ライザー市長はじめ、派遣団を快く迎えてくださったマインブルク市民の皆様、また、ホストファミリーの中には以前にも団員を受入れてくださった方も見受けられ、いつもと変わらぬ温かいおもてなしに、心より感謝の意を表したいと思います。

今回、参加された皆さんは、ホストファミリーの優しさ、温かさに包まれて有意義な日々を過ごし、マインブルク市民の心からの歓迎に触れ、多くの人たちへの感謝の気持ち、意思を伝え合うことの喜びと大切さ、そして言語を越えた人の繋がりを改めて感じたことでしょう。また、バイエルン州の大自然の中で過ごしたり歴史的建造物を見ることでドイツの豊かさを実感できたかと思います。

団員の皆さんにはこの7日間を通じて得た貴重な体験をいかし、自らの夢の実現に向かって歩いていてもらいたいと思います。そして、今後もホストファミリーとの交流を大切にいただき、異文化への理解と友情の絆をより一層深められることを期待しております。

最後になりましたが、本事業を実施するにあたり御協力をいただきました守谷市国際交流協会をはじめとする関係者の皆様に心から感謝申し上げ、御挨拶といたします。

友好の架け橋へ



守谷市国際交流協会会長 小川 一成

第25回守谷市青少年海外派遣事業が、無事成功のうちに終わられたこと
をお喜び申し上げます。

平成2年にこの事業が始まって以来、守谷市国際交流協会としましても全
面的に支援、協力してまいりました。それは、当協会が目標とする市民の交
流を通しての国際交流という観点にこの事業が合致しているためであります。

守谷市の代表として、何事も素直に順応できる10代にドイツの異文化や
大自然、それ以上に異国の方々との心と心の触れ合いを感じてきたことは、
このうえない財産となったことでしょう。今回、マインブルク市を訪問した
皆さんは市民の気持ちに触れ、ドイツという国に好印象を抱くとともに、お
世話になったホストファミリーに対し、感謝の気持ちとともに帰国したこと
と思います。本年は、守谷市とマインブルク市が姉妹都市締結をして25周
年の記念すべき年でもあります。是非、マインブルク市民の方々に来日する
際には、守谷市のホストファミリーに参加していただき、イベント等にも参
加をお願いしたいと考えております。

当協会は、今後も異文化体験の機会を増やし、より広い視野をもって物事
を捉え、考えることのできる素晴らしい好機を提供するお手伝いを続けてま
いります。

最後になりましたが、守谷市と姉妹都市マインブルク市との交流が益々発
展することを祈念申し上げ、御挨拶と致します。

第25回守谷市青少年海外派遣団員名簿

●団員

| 氏名 | 学校名 | 学年 |
|--------------------|--------------|----|
| いでさわ けいと 出澤 慶人 | 江戸川学園取手中学校 | 中3 |
| なりた あいこ 成田 愛子 | 茨城県立竹園高等学校 | 高2 |
| さかもと みさき 坂本 操希 | 茨城県立藤代高等学校 | 高2 |
| しかま なつき 鹿間 菜月 | 土浦日大中等教育学校 | 高2 |
| のぐち ゆうな 野口 佑奈 | 茨城県立藤代高等学校 | 高2 |
| きたじま みゆう 北島 実柚 | 東洋大学附属牛久高等学校 | 高2 |
| おくとみ あやか 奥富 彩夏 | 守谷市立愛宕中学校 | 中3 |
| あずま ももか 東 桃加 | 豊島岡女子学園中学校 | 中3 |
| たかざわ れいな 高澤 玲奈 | 守谷市立けやき台中学校 | 中2 |
| やまざき ゆきの 山崎 ゆきの | 茗溪学園中学校 | 中2 |
| きの えな 木野 愛菜 | 守谷市立守谷中学校 | 中2 |
| おおくら あいり 大倉 愛理 | 守谷市立守谷中学校 | 中1 |

●引率者

| 氏名 | 所属 |
|-------------------|-------------|
| ひらの かずこ 平野 和子 | 守谷市国際交流協会 |
| たかはし こうじ 高橋 幸司 | 守谷市役所総務部財政課 |

事前・事後研修日程

| 月 日 | 時 間 | 内 容 | 場 所 |
|--------------|--------------|-------------------------------------|------------------------------------|
| 6月20日 (土) | 13:30~13:40 | 事務連絡 | もりや 学びの里 |
| | 13:40~15:00 | 自己紹介・自分の家族を英語で紹介しよう！ 海外派遣のルール | |
| | 15:00~15:10 | 休憩 | |
| | 15:10~16:30 | 現地での心得・ドイツを知ろう！ | ↓ いこいの郷常総 (宿泊) |
| | 16:30~17:00 | 学びの里~いこいの郷へ移動(公用車) | |
| | 17:00~18:20 | 入浴 | |
| | 18:20~19:00 | 夕食(食事マナー) | |
| | 19:00~22:00 | フェアウェルパーティーについて リーダー決め・報告書分担決め | |
| 6月21日 (日) | 7:30 ~ 8:30 | 朝食 | いこいの郷常総 |
| | 8:30 ~ 9:00 | いこいの郷~ログハウスへ移動(公用車) | |
| | 9:00 ~ 9:20 | マインブルク市との交流 | |
| | 9:20 ~ 9:50 | ドイツを知ろう！ | ↓ 国際交流 研修センター (ログハウス) |
| | 9:50~10:00 | 休憩 | |
| | 10:00~11:00 | 守谷市国際交流協会会員(派遣経験者)との懇談 | |
| | 11:00~12:00 | 青少年海外派遣団員の心構え等(MIFA) | |
| | 12:00~13:00 | 昼食 | |
| | 13:00~15:00 | ホームステイ英語・ドイツ語 青年交流委員会活動の紹介等(吉川氏) | |
| 6月28日 (日) | 9:00 ~ 9:10 | 事務連絡 | 市役所 大会議室 |
| | 9:10 ~ 9:40 | 海外旅行で気を付けること | |
| | 9:40 ~ 9:45 | 休憩 | |
| | 9:45 ~ 10:35 | ドイツを知ろう！ | |
| | 10:45~12:00 | フェアウェルパーティー準備 | |
| | 12:00~13:00 | 昼食 | |
| | 13:00~15:00 | フェアウェルパーティー練習 | |

| | | | |
|--------------|-------------|---------------------|-------------|
| 7月5日 (日) | 9:00 ~ 9:10 | 事務連絡 | 市役所 大会議室 |
| | 9:10 ~ 9:50 | ヨークさんの多文化共生談・ドイツの歴史 | |
| | 9:50~10:00 | 休憩 | |
| | 10:00~10:40 | ホームステイマナー | |
| | 10:40~10:50 | 休憩 | |
| | 10:50~11:30 | ドイツを知ろう!「ドイツ語基本編」 | |
| | 11:30~12:00 | サンキューメッセージ発表 | |
| | 12:00~13:00 | 昼食 | |
| | 13:00~14:00 | こんな時どうする? | |
| | 14:00~14:10 | 休憩 | |
| | 14:10~16:45 | フェアウェルパーティー練習 | |
| 7月26日 (日) | 9:00~ 9:10 | 事務連絡 | 市役所 大会議室 |
| | 9:10~10:10 | ドイツを知ろう! | |
| | 10:10~10:20 | 休憩 | |
| | 10:20~12:00 | 英会話(講師:鈴木氏) | |
| | 12:00~13:00 | 昼食 | |
| | 13:00~14:00 | サンキューメッセージ発表 | |
| | 14:00~14:10 | 休憩 | |
| | 14:10~16:50 | フェアウェルパーティー練習・リハーサル | |
| | 16:50~17:00 | 事務連絡 | |
| 8月22日 (土) | 9:30 ~10:20 | 反省会 | 市役所 大会議室 |
| | 10:20~10:30 | 休憩 | |
| | 10:30~11:00 | 報告書資料確認 | |
| | 11:00~12:00 | 解散式 | |



海外派遣日程

| 日 | 月日(曜) | 発着地/滞在地名 | 発着 現地時間 | 交通機関 | 行程 |
|---|--------------|---|---|---------------------|---|
| 1 | 8月4日 (火) | 守谷市役所 守谷市役所 発 羽田空港 発 ミュンヘン 着 マインブルク 着 | 7:20 8:30 12:30 17:20 19:20 | 電車 NH217 専用バス | 集合後, 壮行会 電車にて羽田空港へ出発 空路, ドイツ(ミュンヘン)へ バスにてマインブルク市へ ホストファミリーとの対面式《ホームステイ》 |
| 2 | 8月5日 (水) | マインブルク | 9:30 午後 | | 市役所へ表敬訪問 マインブルク市内の英語ツアー 自由行動 《ホームステイ》 |
| 3 | 8月6日 (木) | マインブルク | 午前 午後 | | リンダーホーフ城ツアー オーバーアマーガウ市 《ホームステイ》 |
| 4 | 8月7日 (金) | マインブルク | 17:30 | | 自由行動 BBQ 《ホームステイ》 |
| 5 | 8月8日 (土) | マインブルク | 終日 | | 自由行動 《ホームステイ》 |
| 6 | 8月9日 (日) | マインブルク | 17:00 | | 自由行動 フェアウェルパーティー 《ホームステイ》 |
| 7 | 8月10日 (月) | ミュンヘン ミュンヘン発 | 9:30 21:25 | NH218 | ミュンヘン観光ツアー 出国手続き後空路, 羽田へ 《機中泊》 |
| 8 | 8月11日 (火) | 羽田 着 羽田 発 守谷市役所 着 | 15:50 17:00 19:00 19:30 | 電車 | 羽田到着後, 電車で市役所へ 市役所到着後, 帰国報告会 解散 |

ホストファミリー名簿

| 団員氏名 | ホストファミリー |
|-------------|---------------------|
| 野口 佑奈・高澤 玲奈 | Schönhuber Family |
| 奥富 彩夏 | Bassenge Family |
| 鹿間 菜月 | Caspar Family |
| 北島 実柚 | Wilke Family |
| 坂本 操希 | Bachner Family |
| 大倉 愛理 | Schleibinger Family |
| 山崎 ゆきの | Wimmer Family |
| 成田 愛子・東 桃加 | Hundsdorfer Family |
| 出澤 慶人 | Kuffer Family |
| 木野 愛菜 | Braun Family |
| 平野 和子・高橋 幸司 | Schönhuber Family |

ドイツ・マインブルク周辺地図



ドイツ連邦共和国
Bundesrepublik
Deutschland

面積 約35万7, 121 km²
人口 約8, 094万人 (2014年現在)
首都 ベルリン (Berlin)



バイエルン州
マインブルク市
Stadt Mainburg

面積 約61. 65 km²
人口 14, 405人 (2013年末現在)



思い出の日記



6月20日~21日 宿泊研修

海外派遣事業の海外派遣団員が決まってから初めての研修。期待と少しの不安を抱えながら研修に参加しました。同じ守谷市に住んでいるとは思えないほどお互いのことを遠い存在に感じていました。しかし、自己紹介や自分の家族紹介などをしていくうちに、少しずつ自分の殻



が破れ互いにコミュニケーションがとれるようになっていきました。そして、つい先日会ったばかりの人たちと同じ部屋で宿泊する 때가 来 ました。私は不安もあつたけれど、団員のみんなは明るくて元気な人ばかりだったのでその不安もなくなっていきました。そしてその日の夜の研修ではリーダー、副リーダーを決め、フェアウェルパーティーについて話し合いました。次の日にはこの事業の経験者の方々のお話を聞いて、出発の日がより一層待ち遠しくなりました。

宿泊研修を通して集団生活で大切なことを学ぶと共に、一緒に活動していく仲間のことをよく知ることができました。(成田愛子)



6月28日 事前研修

今日は三日目の研修です。前回は懇談などを行い、ドイツで気を付けることなどを学びましたが、今回は、ドイツのホームステイ6日目のフェアウェルパーティーの具体的な内容と役割を決めました。メッセージを読む順番なども決めました。自分たちが改めて守谷の代表として派遣されるんだなあ・・・と改めて思いました。(高澤玲奈)



7月5日 事前研修

ヨークさんの多文化共生談やホームステイマナーについてのお話がありました。ヨークさんに教えてもらったドイツ語等、現地でもしっかりと使っていけるようにしたいです。

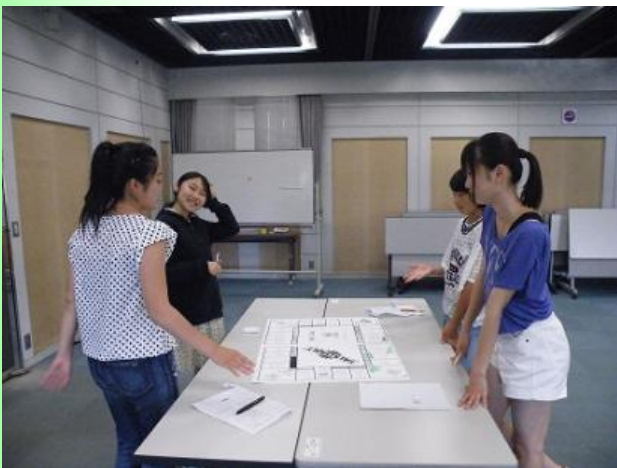
日本語を使わずに状況を伝えるゲームではジェスチャーや英語を使って頑張りましたが、やはり難しかったです。ホームステイ中、ホストファミリーの方々とお話しが出来るか少し不安です。

フェアウェルパーティーの準備は少しずつ進んでいます。ダンスも上手な人を中心に教え合い、まとまってきました。

みんなの距離が縮まり充実した研修でした。(東桃加)



7月26日 事前研修



7月26日、ドイツ出発までの最後の事前研修でした。この日になると間近に近づいてきた出発まであと少し。みんなワクワクしているように見えました。

最後の英会話、鈴木さんが来てくれました。ゲームをやりながら英会話を楽しみました。さすがに5回目の研修なのでみんな打ち解けているようでした。その後は、ヨークさんによる「ドイツを知ろう」のまとめでした。ヨークさんにはド

イツのことをたくさん教えていただきました。それによってドイツに行くワクワク感が高まったし、行く前にその国の歴史などを知ることはとても重要だと思いました。そして、最後はフェアウェルパーティーの準備。4回目の研修と間が空いてしまっていたのにダンスの振りを覚えていてすごいなと思いました。その日の最後はお母さんやお父さんもフェアウェルパーティーのリハーサルを見ることになりました。それでも、あまり緊張せずみんな笑顔だったのでフェアウェルパーティーの準備も完璧でした。

本当にこの5回目の研修は、楽しくていろいろ学べて貴重な体験でした。ありがとうございました。(北島実柚)

8月4日 壮行会～羽田空港～マインブルク

8月4日、僕たちはこの日ドイツに旅立ちました。壮行会で親や関係者の方々に見送られ出発しました。その後羽田に到着したのち、いざミュンヘン空港に向けて出発しました。飛行機内で映画を見たり、寝たりとのんびりして約12時間。僕たちはミュンヘンにつきました。ミュンヘンで一番最初に出迎えてくれたのは、「ようこそ！ミュンヘンへ！」と書かれた守谷市旗とマインブルク市旗の看板を持った市役所の人々でした。その後、高速バスに乗って約1時間半。そして、ホストファミリーたちとの集合場所であるとあるホテルで少し待ったら、緊張のホストファミリーとの対面でした。これから、ホストファミリーとマインブルクを楽しんでいきたいと思います。（出澤慶人）



8月5日 ホームステイ



この日は午前中はマインブルクに行きベンドル副市長に市役所の案内をしてもらい、その後ベルントさんにマインブルク市内の案内をもらいました。市役所の中には日本のものが飾ってある所がありました。マインブルク市内はとてもきれいな街でした。お昼は私はホストの祖母の家に連れて行ってもらいドイツ料理を食べました。その後ドイツのゲームを教してもらいました。お昼が終わったら近くのプールに連れて行ってもらい一緒に遊びました。ドイツ料理は初めて見る物でしたがとても美味しかったです。また、プールは日本のものと比べると水がとても冷たかったです。（坂本操希）

8月6日 ホームステイ

今日はマインブルク市の方やホストファミリーと一緒にリンダーホーフ城の一日日帰りツアーに行く日です。リンダーホーフ城までの長い道のりはバスで移動します。バスの中では、ホストファミリーと楽しそうに話している人もいました。リンダーホーフ城は小さめのお城ですがルートビヒ2世が建てたお城の中で唯一完成したと言われるだけありとても美しかったです。室内は高級で歴史のある調度品ばかりで、みんな目を輝かせて見入っていました。お城見学の後はローラーコースターに乗りました。多くの人が「もう一度乗りたい」と言うくらい楽しんでいました。その後、オーバーアマーガウというところに行きました。絵本に出てきそうなかわいらしい地域で、そこではアイスを食べたり買い物をしたりしました。今日は、ドイツの事もホストファミリーの事もよく知ることができた一日でした。(奥富彩夏)



8月7日 ホームステイ



4日目の今日、午前中はホストファミリーとスーパーに行きました。私がスーパーに行って驚いたことは、飲み終わったペットボトルやビンを専用の機械に入れると、入れた分のお金が返ってくるということです。初めてその機械を見たので驚きました。

午後はホストファミリーと愛子ちゃんと桃加ちゃんと2人のホストファミリーとお城を見に行きました。そのあと、私たちは派遣者全員とそのホストファミリーでBBQをしました。BBQで私は初めてシュペッツィを飲みました。思っていたよりおいしかったので良かったです。私は鹿のお肉も食べました。鹿を初めて食べましたが、身がしまっていておいしかったです。

その後、私はホストファミリーのいとこのバースデーパーティーに行きました。その家はとても大きくて庭にはトランポリン、ブランコ、遊具、ソファ、砂場、テニスコート2面がありました。家にはプールやトレーニングルームがありました。そのいとこたちとは少ししか英語が話せませんでした。積極的に話しかけたので仲良くなることができました。(木野愛菜)

8月8日 ホームステイ

今日は二つの行事がありました。

一つ目はすぐ近くにあるプールに行ったことです。そこは大きなプールではなかったためスライダーなどはありませんでした。でも小さなすべり台や飛び込み台がありました。ホストファミリーにすすめられ私は人生初の飛び込みに挑戦しました。やり方がわからなかったけど、地元の子が分かりやすく教えてくれました。最初はなかなかできなかったけど、回数を重ねるたびにできるようになっていきました。とても良い経験ができました。



二つ目は、南ドイツを一体とした民族衣装ディアンドルを着て、オクトーバーフェストの会場でもある遊園地に行ったことです。オクトーバーフェストとはミュンヘンで開催される世界最大規模の祭りです。夕方になりフードコートへ行くと、まだその時期ではないというのにたくさんの方がビールを飲んでにぎわっていました。私はこんなににぎわっている所は初めてで、人々の迫力に圧倒されました。アトラクションは日本よりも絶叫のものが多く、とても楽しかったです。

最高の1日でした。(大倉愛理)



8月9日 ホームステイ

ホームステイ最終日。午前中は、レーゲンスブルクに連れて行ってもらいました。教会は大きく、とても綺麗で感動しました。ドナウ川では、船に乗る予定でしたが、水位が足りず乗れなかったのが残念でした。

午後はフェアウェルパーティーをしました。事前に練習をしてきたダンスは、みんなで上手く出来たので良かったです。ゲームは、大根抜きをしました。英語でのルール説明でしたが、無事理解してもらえて、メインブルクの人達みんなで、楽しく盛り上がる事が出来ました。Thank you message では、それぞれがホストファミリーに感謝の気持ちを伝えることが出来ました。Danke card を渡しに行くときは、これまでのことを思い出し、泣きながらハグをする人が多かったです。

食後は、外でだるまさんが転んだをしたりお喋りをしたりと、みんなで楽しい時間を過ごすことが出来ました。最後に、より仲を深めることができ、とても嬉しかったです。

家に帰ったら、ホストファミリーから楽しい毎日をありがとうと言われ、プレゼントを貰いました。とても嬉しかったです。こうして、ホームステイ最後の夜を迎えました。(野口佑奈)

8月10日～11日

マインブルク～羽田空港～帰国報告会



いよいよ最終日です。お別れの前に、ドイツの三大都市の一つのミュンヘンで観光です。ミュンヘンでは前日までに買えなかったお土産を購入したり、教会に行ったりしました。ミュンヘン観光も終わり空港に着いて、ついにお別れというときに、私は今までホストファミリーが私に親切にしてくれたことや楽しかったことなどを思い出して泣いてしまったのですが、ホストマザーが本当のお母さんの

ようにやさしく抱きしめてくれました。そして私たちはまた必ず会うと約束をしました。

飛行機では気がつくまで寝ていて、すぐに日本に着きました。今思うことは、達成感とちょっと話したかったという後悔です。今後は、約束を果たすためにももっと勉強して今度はもっと話せたらいいと思います。

また最後に、この一週間は私に自信と世界を見たいと思わせてくれました。なので、今回のプログラムに関わってくれた方々や両親や仲間などすべての人に感謝したいです。(鹿間菜月)

8月22日 事後研修

8月22日の事後研修で、今回の青少年海外派遣団は解散となりました。まず初めに大平さんから私たち12人に伝えたいことをPowerPointで発表してくれました。内容はこの青少年海外派遣というプログラムはただの旅行ではないということや、ホストファミリーには年に数回でもいいからメールや手紙などをして交流を続けるということや、国際交流に貢献し続けてほしいなどの内容でした。



次にドイツでフェアウェルパーティーをした時のビデオを見ました。現地での時間は本当に貴重だったなと改めて思いました。

その後休憩をとってから解散式として団員一人ひとり3分間マインブルクで感じたことと目標を発表しました。また、引率者や市役所の方々も一人ひとりあいさつをしてくれました。最後にあいさつをして今年の団員は解散となりました。ですが、その後MIFAの方々とはBBQをしました。とても素敵な思い出が作れました。

(山崎ゆきの)

守谷からのプレゼント「鯉のぼり」

Koi-nobori (鯉幟)



Koi (Karpfen) sind Fische, die gegen Stromschnellen stromaufwärts schwimmen und dabei allerlei Hindernisse überwinden. Daher stehen sie als Symbol für Stärke, Mut und Ausdauer – Eigenschaften, die man benötigt um große Ziele zu erreichen.

Von diesem Glauben leitet sich in Japan der Brauch für Jungen und junge Männer ab, dafür zu beten, dass sie nach den *Koi* kommen und ein kraftvolles Leben haben werden. Daher werden um den 5. Mai, Kindertag in Japan, überall Windsäcke in der Form von *Koi* aufgehängt.



鯉は、激流をさかのぼりあらゆる障がい克服できる魚と信じられており、大きな目的を成し遂げる強さと勇気、忍耐力を備え持つものとしての象徴とされています。

このことから、日本ではこの鯉にあやかって男の子が強く生きていけるようにと願い、5月5日の子ども日には、鯉の形をした「こいのぼり」を立てる習慣があります。

派遣団員報告書

出澤 慶人

成田 愛子

坂本 操希

鹿間 菜月

野口 佑奈

北島 実柚

奥富 彩夏

東 桃加

高澤 玲奈

山崎 ゆきの

木野 愛菜

大倉 愛理

平野 和子（団長）

高橋 幸司（引率者）



ドイツに行って学んだこと

江戸川学園取手中学校3年 出澤 慶人



僕は今回のドイツの海外派遣で初めて海外へ行きました。その海外で僕は外国人とふれ合う重要さ、楽しさを学びました。

まず、重要さについて話します。僕は最初ホストファミリーと会ったとき、なんて話していいかわからずどうしても必要な時しか口を開かないようになっていました。そのため、実質ほぼ話さなくなっていて、ホストファミリーからも内気過ぎるのではないかと団長の平野さんや添乗員の吉田さんに相談されていたほどでした。それを心配に思ってくれた平野さんや吉田さんはすべての会話を英語で話してみよう、とあえてホストファミリーの前で分かるように英語で言ってくれました。おかげでホストファミリーも英語でどんどん話していいということが分かってもらえて、それ以降ずっと話すこと



ができました。そして同時に研修でベッカーさんが言っていた、外国人には自分の意見をはっきり言わなくてはならない、ということ思い出して、しっかり自分の意見を主張するようになりました。その僕の要望に必死にこたえようとしてくれました。それが僕はとてもうれしくて仕方ありませんでした。



そして楽しさについてです。先ほど言ったように最初はほぼ話さなかったもので、何も楽しく感じていませんでした。しかし、話すようになってからあちら側の思っていることが分かるようになって、今までと違って楽しく感じるようになりました。互いにジョークを言い合ったり、からかい合ったりしてとても楽しかったです。



僕は今回の海外派遣で新しいことを経験することができました。この海外派遣で海外についてだけでなく、なんでも恐れずにチャレンジしてみることが大事だということが分かり、人間的にも成長できたなと自分自身で思うことができました。

僕はこの海外派遣が未来まで続き、マインブルクと守谷の関係がこれから先、さらに良くなるように願いたいと思います。



私の最高の思い出

茨城県立竹園高等学校2年 成田 愛子



私は人生に一度でも良いからホームステイを体験してみたいと思っていました。そんな時、市の広報で海外派遣についての記事を見て私は「これだ！」と思い、申し込みました。海外派遣団員としてドイツのマインブルク市に行けることが決まった時には、心が弾むような気分になりました。宿泊研修など数々の事前研修をしながら、出発の日をカウントダウンしていました。初めはほとんど会話もできなかった仲間とも少しずつ仲良くなることができました。



出発の日を迎え、大きな期待と不安を抱えながらドイツへ出発しました。長い空の旅を終え、ドイツのミュンヘン空港へ到着しマインブルク市へ向かいました。移動していた間に見えた景色は日本と全然違って見るもの全てが新鮮でした。そして待ちに待ったホストフ

ファミリーとの対面！ホストファミリーの方とは何度かメールのやり取りをされていて写真で顔も知っていたけれど、実際に会ってみると身長も雰囲気も自分よりとても大きく感じました。それからの6日間はとても充実したものでした。マインブルク市は緑が豊かで優しい雰囲気、人情味がある町でした。私はホストファミリーと一緒にマインブルク市近郊の町を訪れ、ビアガーデンに行ったり、教会やお城を見たり、ショッピングをしたりしました。町に建ち並ぶ建物はみな美しく歴史を感じさせるものばかりでした。派遣団員のみんなとそれぞれのホストファミリーで一緒に行ったリンダーホーフ城、ミュンヘンでの観光もとても楽しかったです。ついにやってきた別れの時、私は思わず涙を流しました。自分が思っていた以上に素晴らしい出会い、体験ができたのだとその時に実感しました。



このような素晴らしい思い出を作ることができたのは守谷市、マインブルク市の方々、そして家族の支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。今回経験したことを活かしてこれから先もがんばっていきます。そして一回りも二回りも成長した姿でホストファミリーと再会したいです。私にとってこの経験は最高の思い出です！



ドイツに行って

茨城県立藤代高等学校2年 坂本 操希



私はドイツに行く前は英語が苦手で、ドイツのこともよく分からなくてドイツでやっていけるのかとても不安でした。しかし、ドイツの人たちは皆親切で簡単な英語で分かりやすく話してくれたり、日本語の勉強も少ししてくれていて日本語で挨拶をしてくれたりして私にたくさん話かけてくれ色々なことを話すことができ、とても楽しかったです。また、ドイツの料理は今まで食べたことのない料理もあったけれどとてもおいしかったです。しかし少し味が濃かったです。



ドイツの街並みは日本とは違いドイツを歩いているだけで日本と違うことがたくさんあり歩くだけでもとても楽しかったです。住宅街を抜けると



ホップの畑がたくさんあり自然豊かでびっくりしました。

私はリンダーホーフ城、ノイシュヴァンシュタイン城、ホーエンシュヴァンガウ城の3個のお城を見ることができ、どのお城もそれぞれ違いはあったけれど中の作りがとても豪華でとても広くて想像以上にきれいでした。また、リンダーホーフ城には噴水があり、庭も広くとてもきれいで立派でした。ノイシュヴァンシュタイン城は山に建てられていて登るのはとても大変でしたが、お城の中からの景色はとてもきれいでした。



私のホストファミリーの人たちは皆すごく親切でいつも私に色々話しかけてくれ、

お城や川下り、プールなど色々な所に連れて行ってきて毎日とても充実でき楽しかったです。川下りは初めてでしたが、やり方を親切に教えてくれて失敗しないでできたのでよかったです。

私がホストファミリーの人に折り紙を教えた時すごく喜んでくれて嬉しかったです。しかし私は折り紙をあまり折ることができなかったのもっと練習しておけばよかったと思いました。日本からのお土産は家族全員がすごく喜んでくれたのでとても嬉しかったです。ホストファミリーの人は最後の日に私に

たくさんドイツのお土産をくれ、アルバムも作ってくれて本当に嬉しかったです。また他のホストファミリーの人たちとだるまさんが転んだなどをして交流もできて楽しかったです。ドイツではたくさんの思い出がたくさんできました。またドイツに行きたいです。



新しい発見とひとの優しさ

土浦日大中等教育学校2年 鹿間 菜月

今年の夏の体験はわたしにいろいろなものを与えてくれました。

飛行機に乗っているときは、不安よりも楽しみな気持ちの方が勝っていたのですが、マインブルクに着いてホストファミリーに会う前になって自分にできるのか不安になってきました。でも、



ホストファミリーと生活していくうちに気がつくとうつわんはなくなっていました。

マインブルクの生活では、わたしのホストファミリーのお姉ちゃんが他の派遣団の子のお姉ちゃんと仲が良く、ほとんど一緒に行動していたこともあって、毎日が充実していました。なかでも、みんなと湖で泳いだことが楽しかったです。日本では海で泳ぐことはあっても湖で泳いだことはなかったので、少し驚きました。そこではボートを借りて、湖の真ん中まで漕いだら、みんなで飛び込んだりして遊びました。他には、ノイシュバンシュタイン城に連れていってもらいました。お城は



とてもきれいで、本当におとぎ話にできそうでした。わたしのホストファミリーは本当に親切にしてくれて、例えば私が町でドイツ語でなんて書いてあるかわからなくて困っていると英語で教えてくれたり、食事のときには口に合わないものはないか確認したりしてくれたので、私はあまり困ることがなく生活できたし、滞在中ずっとわたしを支えてくれました。



でもひとつ心残りがあるとしたら、もっとホストファミリーと話したかったことです。ですが、言葉で伝えられなかったときは、表情や身振り手振りで通じたときは言語の壁がなくなった気がしてとてもうれしかったです。また、言葉は異なっても、面白いことがあったら一緒に笑ったり、ちょっかいを出しあったりしていると、本当に友達になれたみたいで楽しくてずっとここにいたいと思いました。



私は今回の事業を通して、もっと世界の人たちと話したい、関わりたい、と思いました。そう思えるのは、海外派遣に関わってくれた多くの人のおかげです。本当にありがとうございました。

私は今回の事業を通して、もっと世界の人たちと話したい、関わりたい、と思いました。そう思えるのは、海外派遣に関わってくれた多くの人のおかげです。本当にありがとうございました。



かけがえのない思い出

茨城県立藤代高等学校2年 野口 佑奈

私はマインブルクへのホームステイが決まった時、嬉しい気持ちでいっぱいでした。

ずっと楽しみにしていたホームステイ。けれど、最初は話しかけてもらっても、私は相づちをうつことしかできず、思ったように会話をする事が出来ませんでした。また、「How do you mean?」「I don't know.」などと言われてしまうと、これからの生活が不安でいっぱいになりました。



ホームステイ3日目の夜、私はホストシスターのヴァレンティナと折り紙をきっかけに2人でゆっくりと会話をする事が出来ました。その夜を境に、「私の英語は理解してもらえないかもしれない」

という恐怖や不安は、頑張っって自分の言いたいことを伝えようという気持ちがあれば、英語で上手く話せなくても気持ちやジェスチャーで伝わるということが分かり、「思ったことは英文法が分からなくても話しかけてみよう！」というチャレンジ精神



に変わりました。それからはお互いに話しかける量が増えていきました。時にはくだらないことや冗談を言えるようにもなりました。また、ヴァレンティナがおんぶで飛びかかってきたり、2人で変顔をしたりと、言葉だけではない心のコミュニケーションをもする事ができました。毎日があっという間でとても楽しかったです。

私にとって、マインブルクで過ごした1週間はかけがえのない思い出であり、ヴァレンティナは一生の友達です。ホストファミリーとの別れはとても辛いことでした。日本の友達と別れることとは重みが違います。簡単に行くことが出来る距離ではありません。ですから、もっと幅広い会話ができるように英語力を高めてから、絶対にまた会いに行きたいと思います。

そして、家族をはじめ、守谷市役所の方々、マインブルク市の方々、この企画に協力し、支えてくださった全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。





また、マインブルクに行きたい！

東洋大学附属牛久高等学校2年 北島 実柚

海外派遣が終わり日本に帰ってきた翌日、リュックサックに1通の手紙が入っていました。それは、2歳年上のホストファミリーのアーリーナからでした。その手紙を読んで私は胸がいっぱいになりました。そんな七日間のホームステイは、あっという間で本当に楽しくてたくさんの思い出が出来ました。

マインブルクに到着した日、空港には「ようこそマインブルクへ」というボードが掲げられていました。長いフライトで疲れていたけれどそんな疲れも吹っ飛び、本当にワクワクしま



した。そのあとも感動させられるものがたくさんありました。マインブルクの市役所には、日本の国旗が飾られており、地元の新聞にも掲載されて日本の子供たちが来ているとPRしていただき、スーパーや観光地、どこへ行っても優しくしていただきました。

マインブルクのみなさんは優しくて私



の気持ちも温まりました。そして一番心に残ったホストファミリーとの生活。毎日色々なことを教えてくれて、色々な所に連れて行ってくれました。行く所のほとんどは菜月と菜月のホストファミリーと一緒にでした。どこへ行くにも五人一緒ですごく仲良くなれました。

最後の夜のフェアウェルパーティーでは、研修でたくさん練習したミッキーも大根抜きもすごく盛り上がってよかったです。とくにサンキューメッセージは、読みながら泣いてしまいました。そのくらいこの七日間は、私にとってこれからの人生や考え方を大きく変える経験でした。



私は、この研修に参加して、一番思ったのは、英語が喋れなくてもコミュニケーションはとれるということです。こっちが英語が喋れなくても伝えようとすれば伝わる、心からそう思いました。そして、これから私はこの経験を活かし勉強のための英語だけでなく喋るための英語を身に付けたいと思いました。



海外派遣で学んだこと

守谷市立愛宕中学校3年 奥富 彩夏



この海外派遣は私の中でたくさんの事が変わるきっかけとなりました。それには、建築物や特産品などの違いだけでなく、食事や入浴など基本的な生活習慣や言語という身近なものの違い



も体験できたことが影響していると思います。

変わったことの一つとして英語に対する価値観が挙げられます。今までは、英語は大切だと言われても本当に英語だけでいいのか、英語より大切なことが他にもたくさんあるのではないかと少し反抗する気持ちがありました。しかし、ドイツで私と同世代のネイティブではない人々が英語を母国語のように話す様子や、彼らの話が理解できないといった自分の英語力の乏しさを痛感させられるような経験を通して、やはり他の事より英語が流暢に話せるようになる

ことが先決だと思いました。特に、会話の中で単語が分からず理解できなかったことが多かったため、語彙力は重要だと感じました。

また、もっと他人に対して親切にしたいという気持ちが生れました。ホストファミリーは会ったばかりの私に優しさをたくさんくれました。喉が渇いていないかを



気にしてくれたり、細かく説明してくれたりといった気遣いに感動しました。ホストファミリーだけでなく、マインブルクの人全員が親しく接してくれました。日本人は初対面の人と距離を置いてしまう傾向があるけれど、マインブルクの人たちは子供から大人まで最初からこやかに話しかけていました。初対面だからと言って相手との間に壁を作ってしまうよりも、友好的な方がうれしかったので私も彼ら

を見習いたいです。自分がこの優しさを持って人に接することができたら、毎日の生活はより良いものになると思います。

今回お世話になったホストファミリー、マインブルクの人、また彼らに会えることを願います。そして、次は英語で不自由なく会話できるようになりたいです。最後に、この海外派遣に参加させてくださった守谷市、家族に感謝をします。ありがとうございました。



ホームステイを終えて

豊島岡女子学園中学校3年 東 桃加



日本とは文化も言語も異なる環境で、初めてであった人と家族として生活する。私は始め、ホームステイに対し、期待と共に不安も大きく抱いていました。しかし、常に私たちに気を配ってくれた格好良いお父さん。優しく素敵な笑顔のお母さん。明るく、私達を楽し



ませてくれたアントン君、ヨハネス君。この素敵なフンスドルファー家族と過ごした1週間はあっという間で、とても充実したものとなりました。ショッピングをしたり、美しい教会を案内してもらったり、家ではカードゲームやアーチェリー、卓球をしたり……。カレーや味噌汁を作って食べてもらったこともありました。美味しいと言ってもらえ嬉しかったです。

日本では決して体験出来ないことも数多くあり、毎日が新鮮で本当に楽しかったです。

ホームステイ中、英語が苦手な私はなかなか自分から話しかけたり、考えを上手く英語にしたりすることが出来ず、もどかしい思いをする事も多かったです。次にホストファミリーに会う時には成長した姿を見てもらえる様、もっと勉強します。またそのような中でも、身振り手振りで懸命に伝えようとすると、相手もそれに応えて真剣に向き合い、理解しようとしてくれました。



正しい文法や語彙力だけが、コミュニケーションにおいて重要なのではないと気付くことが出来ました。一生懸命伝える姿勢を忘れないようにしたいです。そして、ドイツはとにかく、自然や人、建物、食事、全てのものが大きい！日本では考えられないものばかりでした。



これまで、自分にとって身近なものが全てである様に感じ、「当たり前」になってしまっていることがありました。今回のドイツ、マインブルクでの生活により、価値観を深め、視野を広げることが出来ました。将来は世界中を旅して様々な経験をし、もっともっと大きな人になりたいなと思いました。

今回はこのような機会を与えていただきありがとうございました。これからは学んだことを生かして、国際交流やまちづくりに少しでも役立てるよう努力していきたいです。



人生を変えた深〜い話

守谷市立けやき台中学校2年 高澤 玲奈

今回の海外派遣で多くの事を学び、パーティーの時には泣いている人がたくさんいてそれほど今回の海外派遣が皆思い出深くなっていたようです。私は絶対に泣かないで笑ってまた会える時はまた笑って会おうと決めていました。今度は機会が来るのを待つのではなく、自分から機会を作って必ず会いに行きたいと思いました。



今回の海外派遣は本当に人生を変えるものになると思います。私は今まで英語を習っていてある程度の会話は聞き取れますが、本物に近い英語を聞いて実際に会話してみたいというのが今回の海外派遣に参加した主な理由です。でも、この海外派遣では英語を聞き取るだけでなく様々な人と関係を持ちいろんなところに行って、実際に見て、

知識を身に着けて、ドイツの生活に実際に触れて、体験して、いままで経験したことのない体験ができました。私がお世話になったファミリーには、大聖堂やお城などに連れていってもらい、昔の人々の信仰などを実際に目にしました。特に印象深かったのは大聖堂で、細かな装飾まで凝っていてとんでもない時間をかけて建てていったんだなあと、全身で感じました。

私は今回の海外派遣の事をもっと多くの方に知ってもらって、興味がある人は、どんどん、参加してもらって、守谷市の活性化に繋げてほしいと思いました。





最高の思い出

茗溪学園中学校2年 山崎 ゆきの



マインブルクの方々と過ごした7日間は私にとってとても貴重な体験で、忘れられない最高の思い出になりました。

なぜならこの7日間で、こんなにも友情を感じられる事が出来たからです。初めてのホームステイということもあり、空港でホストファミリーの兄弟を見たとき、

正直ドキドキしました。ですが、目が合うと笑顔で手を振ってくれてとても嬉しかったです。それからはたくさんコミュニケーションを取ることができ、ホストファミリーの方々のおかげでマインブルクやその周辺の建物についての知識をたくさん身につけることができました。また二つの行事によって、ホストファミリー以外にも友達を作っ



て日本に帰って来るという目標も実現することができました。一つ目の行事はプールです。私は、ホストファミリーの子どものバーナの友達であるアシュリーと一緒にプールに行くことができました。アシュリーとはすぐ気軽にしゃべれるようになり、みんなでプールのすべり台などをして楽しい時間を過ごせました。お別れをする時はすごく寂しかったです。

二つ目の行事はストリートパーティーです。ここでは、他のバーナの友達二人に会いました。最初はBBQだったのですが、私は何をしゃべっていいのかかわからず、その時はあまり会話が弾みませんでした。ですがその後急に夕立がきたので一人の友達の



家でボードゲームをしながら待機していました。

急な出来事にびっくりしたのですがゲームをしている間にだんだんと皆と会話をするようになって盛り上がることができました。

マインブルクで過ごしていくうちに、日本に戻りたくないという感情が生まれてきました。それほどドイツではたくさんの思い出が作れました。公用語はドイツ語なのに、周りの方々は英語で会話をしてくれて本当に嬉しかったです。このような体験をさせてくれた方々に本当に感謝します。私は将来日本だけではなく、海外にも行き、人の役に立つ仕事がしたいです。





いろいろなことを学んだホームステイ

守谷市立守谷中学校2年 木野 愛菜



マインブルクで過ごした5日間はとても楽しく充実していました。

私は、ドイツに行く前にホストファミリーにメールを送りました。でも、全く返事がなかったのもとても不安でした。私は少し不安なままドイツに行きました。でも、ホストファミリーは私をやさしく迎えてくれたのでうれしかったです。

私のホストファミリーは5人家族でした。お父さんのハンスはいつも笑顔で接してくれました。お母さんのシュテファニーはずっと私を気遣ってくれました。一番上のお兄さんマクシミリアンは、21歳で私とかなり年が離れていましたがとても優しく



たです。二番目のお兄さんのモリーツはいつも楽しいことをして笑わせてくれました。妹のハナは私と同じ13歳で困ったことがあるとすぐに助けてくれま



した。でも、ホストファミリーの子供たちは部屋にこもってしまったりスマホをいじっていたりしてあまり一緒に会話をすることができなかったことがとても残念です。

ホームステイ中はリンダーホーフ城などのいろいろなお城や教会、ドナウ川で船に乗ったりしました。その中で私が一番心に残っているのは、サッカー観戦をしたことです。私がプロフィールにサッカーが好きと書いたからか、ホストファミリーがAudi cupに連れて行ってくれました。本場のサッカーはとても迫力がありとても楽しかったです。



最後の夜は、フェアウェルパーティーをしました。ここでは、みんなでダンスをしたり、大根抜きをしました。私は手紙を読んだあと、気持ちがこみ上げてきて泣いてしまいました。その後夕食を食べてから、みんなで「だるまさんが転んだ」をやりました。みんな友達を押し合って転ばせたりして楽しかったです。その日の夜は、お父さんとお母さんとたくさん話をしました。二人とも「いつでも戻っておいで」と言ってくれました。私はすごくうれしかったです。

今回は私の2回目のホームステイでしたが、1回目よりもはるかに楽しく充実していました。また、マインブルクに行きたいです。



プレシャスタイム

守谷市立守谷中学校1年 大倉 愛理



羽田から飛行機に乗って約12時間、無事に長いフライトが終わりました。初めてのこんなに長いフライトで疲れましたが、楽しみの方が大きく疲れなんてふっとびました。

私のホストファミリーの家は、日本でいう豪邸のようで、初めてに入った時とても驚きました。部屋の数が10部屋くらいあり、庭もとても広かったです。そして最初の日、事件が起きました。私はバスルームに入っかぎを閉めて、全てのことが終わりさあ出ようと思ひ、かぎを開けようとしたら、なかなか開かず閉じ込められてしまいました。そうしたらホストマザーが来てくれて、どうにか開きました。そのときは、一生この中にいるのかと思ひあせりました。でも出られて本当によかったです。



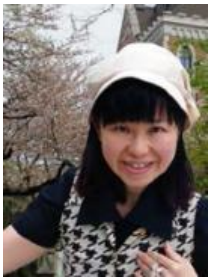
一番心に残った場所は、リンダーホーフ城です。写真でもきれいだなと思ひたけれど、実際に見るともっときれいでした。リンダーホーフ城の中は本物の金でできていました。とくにすごかった部屋は寢室です。ベッドの大きさが私のベッドの4倍くらいでした。とてもフカフカそうなベッドで、寝てみたいなと最初は思ひたけれど、こんなにすごいベッドでは眠りにつけないと思ひました。この日はホストファミリーも一緒に行動したので、たくさん話をする事ができ距離が縮まりました。



最後の夜に行われたフェアウェルパーティーはとても楽しかったけれど、とても悲しかったです。今まで練習してきた結果をここで出そうと思ひ、私たちはドイツへ行く前にたくさんこの準備をしました。いざ本番。ホストファミリーやマインブルクの人々がたくさんきてくれました。緊張したけれど、全力で笑顔で踊りました。踊り終わった後の達成感はずばらしかったです。その後のゲームはとても盛り上がり、空気が笑いで包まれました。そして最後のサンキューメッセージ。心を込めて読みました。本当に充実したホームステイでした。



私はドイツに行き、たくさんのかを経験し学びました。言語は違ひけれど上手くコミュニケーションがとれました。また今度行く日までに英語をもっと勉強し、ドイツ語も勉強したいと思ひました。



成長を促すホームステイ

団長 守谷市国際交流協会 平野 和子



すてきな子どもたち

日本の習慣に守られていた派遣団員の子どもたちでしたが、ドイツでホームステイ家族と会うなり積極的になりました。言いたいことを伝えよう、言っていることを理解しようと、努力していました。20時でも沈まない太陽や日本と違う食文化など、子どもたちは何でも吸収し楽しんでいました。その姿勢が、とてもすてきでした。

日本を再確認

日本人がいつも忙しそうにしているのはなぜか、働き方やその意識についてどのように考えているのかなど、ドイツの方々が私に問いかけてきました。日本から持って行った着物を私が着たとき、着物はいつ着るのか、帯はどのように結ぶのか、着物と浴衣の違いは何かなどの質問がありました。私のつたないドイツ語で答えるのは少々難しく感じましたが、はたして日本語でも期待に答える説明ができたのでしょうか。日本の奥深さを再確認いたしました。



経験の共有

この派遣事業を有効活用するためには、子どもたちが体験を語る方が良いと私は考えます。まず家族に、次に友達に語ってみてはいかがでしょうか。話を聞いてくれた家族や友達の反応から、子どもたちはさらに何かを感じ得ます。ひとりができることには、限界があります。すばらしい経験の共有は、その限界を補完し互いの行動に影響を与えることでしょう。有意義なことだと思いませんか。

一期一会

昨年はドイツを一周しつつ友人を訪ねました。今年はマインブルク市の方々とバイエルンの夏を満喫しました。インターネットの普及で、互いの距離や時差を気にせず交流できる時代ではありますが、赴いたことで巡り合えた縁は、私にとって本当に大切です。ドイツでお世話になった方々、守谷で支えてくださったみなさま、添乗し見守ってくださった方、そして何より派遣団員の子どもたちに出会えたことに感謝いたします。



成長を促したホームステイ

Ich denke, dass ein Schüleraustausch im Ausland – und damit verbunden ein Aufenthalt in einer Gastfamilie – ein Meilenstein für die Entwicklung eines jungen Menschen ist. Die Schüler können mit eigenen Augen das Alltagsleben in ihrem Gastland erfahren und eine neue Kultur hautnah kennenlernen. Das Leben im Gastland konfrontiert sie mit neuen Sitten und Gebräuchen, die vollkommen anders sind als in Japan. Schüler und Gastfamilien leben, lernen, diskutieren und lachen zusammen, was dazu führt, dass beide erfahren, wie es ist, die Welt aus einer neuen Perspektive zu sehen. Auch erleichtert die persönliche Atmosphäre in einer Gastfamilie den Einstieg ins Gastland. Die Beziehung zwischen Mainburg und Moriya ist äußerst wertvoll und ich hoffe, dass sie für viele weitere Jahre bestehen bleibt.

(意訳：今回の派遣は、全日程ホームステイでした。ホストファミリーと過ごし、学び、議論し、笑いながら、日本とは異なる文化・道徳・習慣を間近で感じることで、子どもたちは新しい視点で世界を見るようになりました。この成長には、ホストファミリーの家庭的な雰囲気が必要です。マインブルク市と守谷市の友好的な交流が末ながく続くことを、切に願います。)

以上





マインブルク市 ダンケシェーン(ありがとう)

引率者 守谷市役所財政課 高橋 幸司



私たち守谷市青少年海外派遣団14名は、羽田空港から直行便でミュンヘン空港へ向かいました。入国審査で子ども達は、大きな体で強面の審査官に色々と言われ緊張していたようでしたが無事に通過した後にマインブルク市役所職員が笑顔で迎えてくれたので安心したようでした。



マインブルク市に到着後のホストファミリーとの対面式では、子ども達は歓迎モード一色に喜び、事前研修で習得した英語、ドイツ語で会話を弾ませながら、大皿のドイツ料理をたらいげ、日没の21時ごろには、各自ホストファミリー宅へ行きました。



2日目の朝、ホストファミリーと市役所へ表敬訪問後、教会やビール工場跡地など市内観光をしました。

3日目は、リンダーホーフ城見学やジェットコースターに乗ったり、子ども達は大はしゃぎでした。



4日目は、森の中でのバーベキューでした。各家庭での料理を持ち合いながら、豚肉そして地元の方が猟で捕獲している鹿の肉を味わいながら食べていました。

5日目は、各ファミリーでミュンヘン市や湖に行ったりしたようです。

6日目は、ホストファミリーと過ごす最後の夜にフェアウェルパーティーが開催されました。日本で猛練習したキレのいいダンスをお披露目した後、「大根抜きゲーム」ではルール説明から盛り上がり楽しいゲームとなりました。そして、「サンキューメッセージ」では、マインブルクでのおもてなしを思い出し、各自ホストファミリーに感謝の気持ちを伝えましたが涙しながらハグをしていました。いま思い出しても感動するシーンでした。

私たち派遣団は、ホストファミリー、マインブルク市役所、守谷市国際交流協会、市民協働推進課、添乗員など多くの方からご協力を頂き、楽しい夏を過ごすことができました。「ダンケシェーン」の気持ちでいっぱいです。

子ども達へ！マインブルクで体験したことを学校生活、国際交流に活かしてください。いつか成長したみんなとドイツビールを飲みながら、大きなピザ、白ウィナーを大皿で完食しましょう！



マインブルクの新聞に掲載された記事

Hallertauer Zeitung





守谷市青少年海外派遣団がハラタウ地方へ 市役所でマティアス・ベンドル副市長が歓迎

姉妹都市の守谷市から来た派遣団の若者は一週間ハラタウ地方の家族でホームステイ。ホストファミリーとして若い日本人を歓迎する家族はマインブルクだけではなく、ナンドルシュタットやオーバーススバハなど他の地区の家族も多い。

派遣された12歳から16歳の団員と引率3人(中には守谷市の高橋幸司さんと守谷市国際交流協会の平野和子さん)は火曜日にホストファミリー、水曜日にハラタウ地方の民族衣装を着たベンドル副市長から市役所でおもてなしを受けた。派遣団はまずシュテファン・レムレさんにマインブルクを英語で案内してもらった。プログラムにはリンダーホーフ城の見学やバーベキュー、ミュンヘンの日本語でのガイドツアーなども含まれていた。

11月にマインブルクからの訪問団がお互いの交流と友好関係を深めるために日本の姉妹都市である守谷市へ出発する。

編集後記

今回で25回目となる守谷市青少年海外派遣事業。今回の派遣国はドイツ。海外に行くこと自体が初めてという団員もあり、青少年の皆さんは今までにないような体験や感動で価値観が変わったことと思います。中でもホームステイでの経験は皆さんがこの報告書に書かれたように、異文化体験と共にホストファミリーの温かさを肌で感じたことでしょう。

今年度の派遣団員の皆さんは、事前研修当初とても大人しく自分の意見をはっきり言うことができず、心配したことを思い出します。

その後の事前研修では、慣れないドイツ語や英語の練習、フェアウェルパーティーの準備に真剣に取り組んでいたこともあり、団員の皆さんの絆も深まりホストファミリーともかけがえのない思い出ができたと聞いています。

帰国後の事後研修では、皆さんの顔つきも変わり少し大人になった気がします。ドイツで感じたことや将来の夢を生き生きと語り、今後の活動が楽しみです。団員の皆さんには参加した仲間との交流はもちろんのこと、遠く離れたドイツ、マインブルクの新しい家族・友達との交流を是非続けてほしいと思います。そして、この事業で得た『心のふれあい』を忘れずに次のステップに役立てていただき活躍されることを願っています。

最後になりましたが、団長として研修から積極的に御尽力いただきました、平野さん、そして団員の選考から研修まで御協力いただきました守谷市国際交流協会の皆様に心から感謝申し上げます。

守谷市役所 生活経済部 市民協働推進課